市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1	伊江村HPサービス拡充強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3) 高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）

事業内容

観光客の誘客拡大を目指し、村のHPにおいて観光情報や防災情報など国内外に情報発信するため多言語対応や船舶予約ｼｽﾃﾑなどｺﾝﾃﾝﾂ開発やｼｽﾃﾑ構築を行い機能拡充強化を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	27,000	21,600			
	(b) 予算現額	26,460	21,600			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 540	0			
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	26,460	21,600			
B. 執行済額		26,460	21,600			
うち交付金充当額		21,168	17,280			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		伊江村HPシステムと車両航送予約システムの機能連携及び、車両航送業務システムとフェリー券売機システムの構築並びに機能連携を当初予定通りの事業執行を行った				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
H26構築したｼｽﾃﾑ･伊江村HP･車両航送予約･車両航送業務の機能連携ｼｽﾃﾑの構築	目　標	（　構築　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	構築済			
ﾌｪﾘｰの券売機構築(機能連携含む)を行う	目　標	（　構築　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	構築済			

達成状況説明：伊江村HPシステム、車両航送予約システム、車両航送業務システムにつき機能連携を目標とし、完了した。車両航送に係るシステムが伊江村HPと連携し多言語化された。また、伊江港、本部港にクレジットカード、電子マネー等に対応した券売機を設置し、村民及び観光客等のアクセシビリティが向上した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	年度	年度	目標値（　年度）
平成26年度構築ｼｽﾃﾑ〇伊江村HPｼｽﾃﾑ〇車両航送予約ｼｽﾃﾑ〇車両航送業務ｼｽﾃﾑ･平成27年度構築ｼｽﾃﾑ〇ﾌｪﾘｰ発券機ｼｽﾃﾑの構築上記すべてのｼｽﾃﾑの機能連携を行う。	目　標	（　　）	（　連携　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		連携済			
ﾌｪﾘｰの券売機構築(機能連携含む)を行う	目　標	（　　）	（　構築　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		構築済			

進捗状況説明：伊江村HPシステムと車両航送予約システムの機能連携及び、車両航送業務システムとフェリー券売機システムの構築並びに機能連携を行い、住民を含めた国内外の観光客の利便性向上を図った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成26年度に構築したHPと車両航送システムを連携させ、伊江村HPがポータルサイトとなり車両航送予約システムが利用でき、車両予約の簡易化がはかれた。同時に、平成27年度に設置した券売機は、増加する外国人観光客へ対応するための多言語対応や、クレジットカード、電子マネーの利用ができるようになり、村民、観光客の利便性向上がはかれた。 また、平成26年度にハンディを持つ人に対し配慮した機能、緊急時に役立つ防災情報、さらに、観光や文化面での情報を携帯電話やスマートデバイス等に対応する環境を整備したことから、迅速な防災情報の提供や、多様な観光情報等を更に充実させ、住民、情報弱者や観光客等へ安心安全で利便性の高い情報を発信する必要がある。	数種類のシステムを連携させたため、それぞれのシステムを安定稼働させる必要がある。台風等の悪天候時の安定化と迅速な復旧を行いたい。 安全、安心で利便性の高い観光資源の提供を行う環境の整備を行ったことで、そのコンテンツの更なる充実をはかり、迅速な防災情報の提供や、その時期のニーズに適応した多様な観光情報等を更に充実させ、利便性を高める必要がある。

今後の取り組み方針

システムの安定稼働を常時モニタリングしており、電源の冗長化等も整備しているが、通信回線の冗長化等、更に安定させる構成を検討したい。
迅速な防災情報の提供や、多様な観光情報等のコンテンツの充実を図り、住民、観光客への利便性の高い情報提供を継続する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,600	21,600	17,280	4,320	0

伊江村
21,600千円

委託料
21,600千円

株式会社アール・イー・アイ
伊江島情報通信事業所
21,600千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○専門業者の見積り等を精査し発注した。予算希望は適正と判断した。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、金額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２-①	世界のイージマンチュ交流派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-（1）-（ア） 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進
担当部課名	教育行政課（伊江村人材育成会）	事業実施（予定）年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-7

事業内容

日本有数の移民県である沖縄では、戦前戦後を通じ多くの県民が海外へ雄飛し活躍している。当村からも、北米・南米をはじめ世界各地へ移民するなど、イージマンチュ（伊江島の人々）は注目を集めている。5年に1度の「世界のウチナーンチュ大会」を現地にてPRし、一層盛り上げるとともに世界のイージマンチュの絆を強固にするため、国際交流を図り、移住国との架け橋となる人材を育成する派遣交流事業を実施する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,000				
	(b) 予算現額	6,000				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,000				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	6,000				
B. 執行済額		5,439				
うち交付金充当額		4,251				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		90.7%				

予算の状況の説明：不用額については、当初見積もりしていた航空券等が入札によって減となったものであり、予定していた事業内容は実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
世界のイージマンチュが双方向で交流することで絆を深め、村出身の子弟らが世界に目を向け、世界で活躍する人材の育成を図る。	目　標	（交流・親睦を深める）	（　）	（　）	（　）
	実　績	交流・親睦を深めた			
村人材育成会へ支援し交流事業を実施する。	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・村民を対象に参加者を募り、８人を派遣した。
・南米のブラジル、ボリビア、アルゼンチンを訪問し、現地で活躍するイージマンチュと交流、親睦を深めることができ、絆をより強固にすることができた。
・平成28年度に開催される「世界のウチナーンチュ大会」ならびに伊江村で開催する「世界のイージマンチュ交流会」への参加を呼びかけることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
国際交流本研修で、現地にて学んだことを地域へ他児童生徒へ伝えることでお互い国際交流への興味や海外に対する意識が向上し、今後の国際社会へと対応しうる人材の育成を図っていく。	目　標	（　）	（人材育成を図る）	（　）	（　）	（　）
	実　績		人材育成を図った			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・派遣した8人のうち、中学生3人を派遣したことで、現地の生活や文化に触れ貴重な体験を得ることができた。
・伊江村学力向上推進実践報告会において南米訪問報告を行い、パワーポイントを使用して派遣事業で得た経験や考え方を発表する場を設けた。

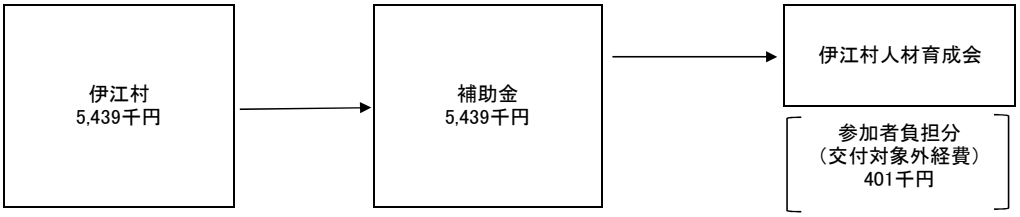
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・3ヵ国を訪問するスケジュールで、1ヵ国あたりの訪問日数が2～3日程度と短期間であったため、現地の関係者からもう少し長く滞在して交流を深めたかったと要望があった。 ・中学生を派遣し、実践報告会や報告書の中で派遣事業の経験を伝えているが、伝えるだけでなく村内の小中学生を対象に、国際交流に関する興味などについて、アンケート調査などを行う必要がある。	・今後、派遣事業を実施する際には日程調整や現地の要望等を踏まえたうえで、滞在期間を検討する必要がある。 ・実践報告会などを通じて派遣事業の経験を伝える機会を設けているので、その会場で話を聞いた小中学生へアンケート調査を行う。

今後の取り組み方針

・交流派遣事業を通じて、南米に居住するイージマンチュに対し、5年に1度開催される「世界のウチナーンチュ大会」への参加呼びかけも行うことができた。今後は日程や人員等を調整しながら交流事業を継続し続け、派遣や招聘の相互交流事業を展開して、伊江村と諸外国との架け橋となる人材の育成に努める。
・参加者を対象に派遣前と派遣後のアンケート調査を行い、派遣前の目標と派遣後の達成状況などを確認できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,841	5,439	4,251	1,188	401



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣する生徒を決定する際に、書類審査や面接を行い、村の代表となる生徒を選定した。また、一般参加者についても同様に実施し派遣した。 ○活動内容、成果目標はほぼ達成しており、予算規模は適正であったと考える。 ○交付要綱に基づいて補助金を交付し、参加者が渡航費の1割を負担している。 ○費目・使途は、事業目的に則して実施したので適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－①	伊江村ハブ対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（6）－ア 地域特性に応じた生活基盤の整備
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成27～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－12

事業内容

本村に生息するﾊﾌﾞによる健康被害から、村民及び観光客を守るため、生息地となっている観光地や海岸沿いへ捕獲器を設置し、ﾊﾌﾞの捕獲駆除に取り組む。また、村民の要請によるﾊﾌﾞの駆除及びﾊﾌﾞが住処を作りにくい環境を整備するため生息地の清掃を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,022				
	(b) 予算現額	2,980				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,042				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	2,980				
B. 執行済額		2,980				
うち交付金充当額		2,384				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		1.00				

予算の状況の説明

当初予算額では5,022（千円）（委託費）であったが、業者選定に時間を要し当初予定の履行期間より業務期間が短くなったことから2,042（千円）の残額が生じた。事業内容は計画通り執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
捕獲器を設置する	目　標	（　捕獲器設置　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	設置完了			
巡回パトロールによるハブの捕獲	目　標	（　巡回　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	巡回完了			
月に1箇所ハブ生息地の清掃を行う	目　標	（　生息地清掃　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	清掃完了			

達成状況説明

・捕獲器を設置することでハブを捕獲することができハブ減少にも繋がった。
・巡回パトロールを行うことで、ハブを捕獲することに繋がった。
・ハブ生息地の清掃を行うことで、ハブの隠れ家を少なくすることができ観光地の安全対策を施すことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
ハブ咬症による被害件数を0件とする。	目　標	（　　）	（　0件　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		0件			

進捗状況説明

平成27年度におけるハブ咬症被害件数が0件であり、尚且つ生息地となっている観光地や海岸沿いの清掃を行ったことで安全・安心な生活環境の整備に繋がった。

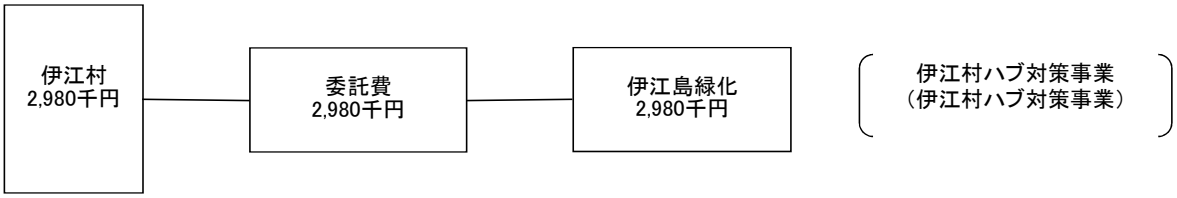
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ハブ捕獲器の設置場所を十分に検討する。 ・観光地や海岸沿いに看板等を設置し注意勧告を行うことができなかった。	・継続してハブの捕獲及び清掃業務を実施することで、ハブ捕獲及びハブの住処を減少させ、地域住民及び観光客への安全対策に繋げる。 ・ハブ捕獲器の設置場所を再度検討することで、村内のハブ減少に繋げる。 ・ハブの目撃情報を募集し、地域住民及び観光客へ周知する。

今後の取り組み方針

・引き続きハブ対策業務を実施することで、ハブ咬症被害件数0件を目指す。
・捕獲器の設置箇所を見直し、また計画的にハブ減少に繋げるためにハブ捕獲器の設置個数を増やす。
・ハブ咬傷件数0件を維持するために、注意勧告のための看板等や村内広報誌等へ掲載、ハブの目撃情報の募集、目撃情報場所への捕獲器の設置や清掃、村職員による見回り等を実施することで、村民及び観光客等への周知を徹底し危険性除去に努めることで安全・安心な環境整備を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,980	2,980	2,384	596	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、専門的に実施可能な業者が少ないため、当該業務の見積依頼に応じた業者中から最低見積価格を採用したた。また、当該業務受注業者は専門的な知識及びハブの住処等を熟知していることから、契約は妥当であると考える。 ○予算規模については、設計書をもとに予定価格を設定し執行し　ていることから妥当であると考えられる。 ○業務後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－①	明るい村づくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

集落内の防犯灯をCO2排出の少ないLED照明灯に取り換え、更に新規設置し、夜間における、安心・安全な地域環境整備を推進することにより、村民及び観光客等の防犯対策の抑止効果と地球温暖化対策にも寄与する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	9,000				
	(b) 予算現額	7,560				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,440				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	7,560				
B. 執行済額		7,560				
うち交付金充当額		6,048				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		1.00				

予算の状況の説明

当初予算額では9,000（千円）（工事請負費）であったが、不用額の1,440（千円）については入札残によるものである。事業内容は計画通り執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
既存街灯１００基をLED照明灯に取り換える	目　標	（　100基　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	78基			
既存街灯の照度等の調査を行う	目　標	（　照度調査　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	照度調査			
新規設置にかかる設計も含めて行う	目　標	（　設計の実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	設計の実施			

達成状況説明

・平成27年度計画のではLED照明灯を100基転換する予定であったが、照度等を鑑み78基を転換し22基を新規設置した。
・既存街灯の照度等の調査を当課職員で実施した。
・転換及び新規設置箇所の配置計画図を作成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
村内の集落内等の照度を高める。（3lx以上）	目　標	（　　）	（　3lx以上　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		3lx以上			

進捗状況説明

・LED照明灯100基の転換・新規設置を完了したことで、設置した場所が3lx以上の照度を確保するができた。
・平成28年度においては、計画しているLED照明灯100基の転換・新規設置を行う。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地球温暖化対策及びCO2排出削減の取組みに向け本事業を実施しているが、地域住民への周知及び啓発活動が不十分であった。 ・交通安全対策及び防犯対策の観点から、新規設置箇所を選定する。 ・既存照明の取換え選定作業及び配置計画図の作成に時間要した。	・継続してLED照明灯へ移行を実施することで、更に防犯・交通安全策、CO2排出削減及び地球温暖化対策に繋げる。 ・今後は村の広報誌等において周知活動等を行い、村全体で地球温暖化対策及びCO2排出削減に取り組む。 ・配置計画図の見直しを図るとともに、既存正面の取換え選定作業の現地確認を行うことで事業の早期着手を目指す。

今後の取り組み方針

・引き続きLED照明灯へ移行することで、CO2排出削減、地球温暖化対策及び観光、防犯対策、交通安全等を図る。
・本村の第4次総合計画及びスマートアイランド構想等を踏まえ、地球温暖化対策及びCO2削減の推進を図る。
・観光受け入れ態勢の充実を図るうえで、民家体験泊（民泊事業）者や地域住民からヒアリングを実施することで、明るい村づくりを推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,560	7,560	6,048	1,512	0

伊江村 7,560千円 ― 工事請負費 7,560千円 ― 具志川電気商会 7,560千円

（伊江村防犯灯整備工事（明るい村づくり事業））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は、指名競争入札で実績等を勘案し選定しており妥当であったと考えられる。 ○予算規模については、設計書及び見積書をもとに予定価格を設定し執行しているので妥当であると考えられる。 ○工事後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5	伊江村自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7) 交通・生活コストの低減
担当部課名	公営企業課	事業実施（予定）年度	平成26～31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9
事業内容	離島である本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな障害となっている。このため、自動車航送運賃ｺｽﾄ負担の軽減に対する支援を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,960	12,000			
	(b) 予算現額	12,922	13,702			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 38	1,702			
	(d) 繰越額	―	―			
	A. 計 (b+d)	12,922	13,702			
B. 執行済額		12,922	13,702			
うち交付金充当額		10,338	10,961			
次年度繰越額		-	-			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初、16000件程度の利用を想定し開始したが予想を上回る利用であった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
車輌航送に対する補助年間約1.6万台	目　標	（1.6万台）	（1.6万台）	（　）	（　）
	実　績	15,954台	16,816台		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：車両航送１台につき、運転手１名分相当分として810円を割引実施した。住民への生活コストの負担軽減策として、自動車航送運賃への補助を行ったことにより住民の生活コストの低減に寄与できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
車両航送に対する補助により、離島の地理的条件による不利性を軽減し、定住促進を図ることにより、年間車両航送使用者数を維持する。	目　標	（1.6万台）	（維持）	（維持）	（　）	（　）
	実　績		15,954台	16,916台		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：当初見込んだ目標台数を上回る実績となった。村内住民の交通手段である船舶にて車両航送負担軽減を行って定期的な医療等への通院や教育関係の大会など気兼ねなく本島との行き来ができるようになり村内住民の生活コスト負担軽減に繋がったと考える。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・離島である本村は、沖縄本島との交通機関は船に頼らざるを得ず、移動の大きな障害となっているため、自動車航送運賃コスト負担の軽減を継続して行う。 ・事業の実施による、土・日、祝日等休日の切符購入時の混雑を緩和するため、航送申込書の記入不要なQRコード付き離島住民割引カードの運用徹底を図る。 ・混雑緩和及び利用者の利便性向上を目指し、クレジットカード、電子マネーカード等のシステムを構築し、定時運航に支障がないよう運用する。	・QRコード、クレジット支払など、新たなシステムの利用を促進し、利用者の利便性を向上させる取り組みを行う。 ・割引申し込みカードの発行や進学等カード区分切り替え更新等、利用者への周知を強化し、利用数低下につながらないようにする。 ・電子機器・サーバ・システムの停電等による障害を克服するために定期的な保守を行い、停電等への緊急対応策についても研鑽する。

今後の取り組み方針

・航送券販売の簡素化・合理化による利便性向上及び現金以外の支払い方法の検討を進め、利便性の向上と、利用者維持を目指す。
・割引申し込みカードの発行や更新等、利用数低下につながらないよう周知を徹底する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,702	13,702	10,961	2,741	0

伊江村
13,702千円

補助金
13,702千円

公営企業課
13,702千円

（補助金
車両航送に対する補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は唯一の航路事業者を選定しており、妥当であったと考える。 ○不用額はなく適正な規模と考える。 ○費目・使途については予定を上回った。実績報告・検査も実施した。目的に則し適正はものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	アジアン野菜市場調査委託事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)

事業内容

村内で生産される農作物において新規作物を模索する中、本村の気象や土壌特性を考え、冬場でも栽培や出荷が可能な高品質な野菜として、アジア地域から要望が強く、国内の産地として出荷の優位性が期待できるアジアン野菜の生産、販売を検討する。専門家による市場調査業務を行い、タイやベトナム、中華料理の外食市場での生鮮素材の動態を確認し、対象野菜の生産拠点となる伊江島ブランドを確立する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,000				
	(b) 予算現額	10,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	10,000				
B. 執行済額		9,918				
うち交付金充当額		7,934				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.2%				

予算の状況の説明：指名型プロポーザル方式で委託事業者を選定し、予算の範囲内で事業提案内容通りに適正に執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
・市場性を確認、調査し、事業戦略と販売計画を検討する。	目　標	（事業戦略と販売計画を検討）	（　）	（　）	
	実　績	事業戦略と販売計画の検討済			
・対象作物毎の肥培管理の体系化や生産者の経営指標の整理を行う。	目　標	（経営指標の整理）	（　）	（　）	
	実　績	経営指標の整理済			
・事業実施体制を確立し、加工商品の企画、物流経路とコストの確認、販売先の外食産業の選定と提携を行う。	目　標	（販売先の外食産業の選定と提携）	（　）	（　）	
	実　績	販売先の外食産業の選定と提携済			

達成状況説明：①アジアン野菜の市場性の確認　②先行栽培3品目（青パパイア、ガパオ、ホーラーパー）の現地適性試験の実施　③アジアン野菜の種苗正規調達ルートの確立　④市場規模の整理　⑤アジアン野菜の物流と商流の確認・整理　⑥事業スキームの整理構築　⑦受発注管理システムの機能要件整理　⑧事業実施幹事会社とその法人形態の検討　⑨先行3品目の経営指標の整理及び栽培マニュアルの作成　⑩先行3品目の出荷養生整理　⑪事業計画などを作成できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
・市場調査を受け、ビジネスモデルと収益構造の整理を行い、販売先を含めた事業スキームを構築する。	目　標	（　）	（事業スキームを構築）	（　）	（　）	（　）
	実　績		事業スキームの構築済			
・栽培品目の選定と栽培マニュアルを作成し、出荷養生の整理、商品設計を行う。	目　標	（　）	（栽培品目の選定と栽培マニュアルを作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績		栽培品目の選定と栽培マニュアルを作成済			
・事業計画と作業工程表を作成し、受発注システムの機能要件や村内の経済効果を検討する。	目　標	（　）	（事業計画と作業工程表を作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績		事業計画と作業工程表の作成済			

進捗状況説明：販売先を含めた事業スキームの構築ができ、今後伊江村においてアジアン野菜を生産し、販売するにはどの程度の生産量が求められているのか、及び単価も設定できたので、品目ごとの経営指標もまとめられた。先行3品目（青パパイア、ガパオ、ホーラーパー）の現地適性試験も実施し、本村の土壌、気候にも適しており、次年度の試験栽培への継続が可能となった。また、調査業務を実施しているなかで、優良種苗の確保が他産地と競合するにあたって優位性が図れるかどうかの重要なポイントであることがわかり、その対策として正規ルートでの種苗調達も追加事項として調査を実施した。その結果、国内大手の種苗会社から県内の代理店を通じた種苗ルートが確立でき、遺伝子組み換えやウイルスに感染されない優良種苗の調達が可能となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・安定した農作物の栽培には施設栽培が条件であるものの、施設に投資できる資金調達は個人農家には容易ではない。堆肥センターや地下ダムの農業用水を活用して、気候・土壌特性を活かしたアジアン野菜を栽培することで、新規就農支援や雇用を創出する必要がある。 ・直接取引による販売は固定相場で反収も上がり、農家の経営も安定するため、アジアン野菜のイメージブランドを作り、観光誘客と加工品の販売まで広げた効果も検証する必要がある。	・年間を通して安定したアジアン野菜を生産するには施設栽培が必須であるため、補助事業も含めた支援等が今後必要となる。また、農業用水等を活用しながら露地栽培での可能性についても試験栽培を行い、村内の新たな雇用創出に努める。 ・村を代表する新たな新規作物としてアジアン野菜のブランドを確立し、直接取引が可能となる受発注管理をシステム化し、生産から加工、販売までの一元化を図るように努める。

今後の取り組み方針

・平成28年度においては、先行3品目の栽培試験（ハウス、露地）を行い栽培指針を確立し、29年度以降の農家への普及を図る。
・新たな品目として数品目を追加選定し、現地栽培適性試験を実施する。
【栽培品目：パクチー、レモングラス、マクアポ（白なす）、カー（タイ生姜）、パッカナー（カイラン菜）】
・取引先へハウス及び露地で試験栽培したアジアン野菜を出荷し、①商品の形態確認②取引の条件③商流の整理④食味評価等を確認を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,918	9,918	7,934	1,984	0

伊江村 9,918千円 ― 委託料 9,918千円 ― 株式会社 アイシス 9,918千円 ［アジアン野菜生産販売調査業務］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は市場調査業務に精通した業者による指名型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は内容に即した諸経費及び人件費等が適正に設定されていることから適正な規模と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものに限定されていることから適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	気象観測機器設置整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3章－3－（12）－（ウ） 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（6）

事業内容

昨今の台風襲来や干ばつなど激しい気象変動に伴い、本村の農作物に甚大な被害が発生した。本村は気象データを観測する機器を設置しておらず、近隣の本部気象観測所のデータを参考にしている。海を隔てており場所によって異なった気象が発生し、気象データの適切な管理が困難となる。そのため、気象観測機器を設置してデータを収集し、農作物の管理や被害立証等に役立てる。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	17,000				
	(b) 予算現額	8,618				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 8,382				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	8,618				
B. 執行済額		8,618				
うち交付金充当額		6,894				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：当初見積り時においては、予算額（17,000千円）であったが、入札時に企業努力もあり、大幅な減額となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
観測機器購入（風向風速計、日照計、雨量計等）	目　標	（　観測機器購入　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	観測機器購入			
システムネットワーク構築	目　標	（システムネットワーク構築）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	システムネットワーク構築			

達成状況説明：気象観測機器一式を購入し、村内3箇所の気象環境を即時に把握することができるようになった。これを機に村内の気象状況データを蓄積し、今後活用していく。また農作物の管理や品質向上に向け、団体や農家などに情報提供、情報共有していくために利便性を高めていく。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
気象データを活用した、農作物の管理や品質向上に努め、農作物の安定供給をはかる。	目　標	（　　）	（農作物の管理）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		農作物の管理			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：今年度においては、気象データを活用する機会が少なかったため、データの蓄積・整理を行い、管理体制をしっかり整えていく。また、蓄積したデータを分析し、村内の気象の特徴や傾向を把握し、村内気象の検証、かん水時の目安として活用できるように努めていく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	雷の影響により、回線が断となり、気象情報はデータロガーに蓄積されるものの、管理しているPCに情報が届かない事象が発生した。 停電時などに備え、無停電電源装置（UPS）の導入を検討する。 農林水産課内にPCを設置しデータを管理しているが、外部からでも情報が閲覧できる仕組みを検証する。	本村役場内のPCを管理している会社と連携し、事象発生後に点検を実施、運用を再開できたので、今後も協力体制を維持していく。 停電した際に復旧までの時間を測定し、装置の必要性、有効性を検証する。 村民に情報を普及させるために、村内広報誌への掲載、団体等への情報提供、HPへの掲載などの検証を行う。

今後の取り組み方針

村民及び村内外の団体や企業などが気象情報を知ることができる環境を整備し、雷などの不測の事態が発生した際に情報が欠落しない仕組みを作る。また、適切な情報管理を行い、農作物の管理や被害立証などに役立てる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,618	8,618	6,894	1,724	0

伊江村 8618千円 → 備品購入費 8618千円 → 福山商事株式会社 8618千円 → 気象観測機器一式購入契約（備品購入及び設置作業）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札にて選定したので妥当であったと考える。 △事業内容は適正であったが、増減額が大きくなってしまったので、予算規模に関しては一部改善できる点が見られた。 ○費目・使途においても、書類提出及び検査を実施したので適正であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－③	農作物緊急灌水車両整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（１２）－ウ 特産品開発やﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝなどﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ支援等の強化
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(6)

事業内容

干ばつ時や台風時の降雨が少ない場合に、さとうきび・野菜等の農作物に早急な灌水を行い干ばつや潮害から作物を守り、伊江島ブランドとしての農作物の品質維持に努める。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	29,205				
	(b) 予算現額	22,407				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 6,798				
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	22,407				
B. 執行済額		22,407				
うち交付金充当額		17,925				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

当初予算額では29,205（千円）（備品購入費）であったが、不用額の6,798（千円）については入札残によるものである。事業内容は計画通り執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
・10tﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ灌水車導入 ・6tﾕﾆｯｸﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ灌水車導入	目　標	（　車両購入　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	車両購入			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明

散水銃や灌水タンク搭載の10トン灌水車・6トン灌水車の計２台の導入を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
・灌水車を導入する事により、さとうきび生産の過去3期（H23・24・25）の平均単収（4,354t）を基に、20%UP（5,224t）を目標とする。 干ばつや台風時の早急な灌水を行い旱魃の緩和、潮害の被害を最小限にくい止め、農作物の安定供給をはかる。	目　標	（　　）	（　5,224t　）	（　　）	（　　）	（　－　）
	実　績		7,206t			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

さとうきびの生育旺盛期である6月～10月の降雨の影響により、単収が増加したが、気象災害である干ばつや台風時に備え、灌水車を効率的に活用する事により、被害を最小限にくい止め、農作物の品質維持に努めていく。

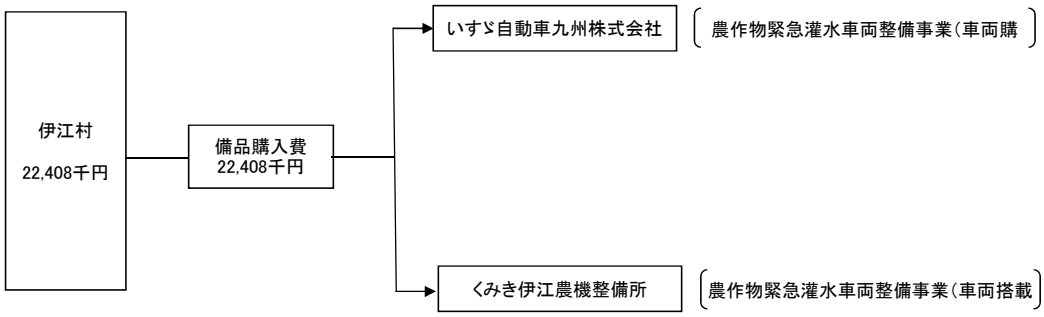
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	近年、大型台風が襲来し進行速度も遅く、長時間暴風雨にさらされることが多くなってきている事から、特に東や北東の強風で降雨の少ない台風では潮害が多く発生し、さとうきび・野菜等の農作物に大きな被害をもたらしている。また平成25/26年期において6月から8月までの戦後最大の干ばつで早急に灌水する手立てがなく、さとうきび生産量の1,500t（約30%）の減産となり、いかにして干ばつや潮害を最小限にとどめるかが今後の大きな課題となっている。その事から、干ばつ期における灌水、台風通過後の除塩作業を実施できる2台の灌水車両の導入を行った。 灌水車両を購入した事により、近年慢性化している干ばつ時や台風通過後の除塩作業を行えるようになった、2台しかない灌水車で、効率的に灌水する事が今後の課題となる。	灌水車両を購入したことで、干ばつ期における灌水、台風通過後の除塩作業を実施し、農作物の安定的な品質及び収量の確保、生産農家の意欲向上や所得向上を図る為に、品目ごとの灌水時期や灌水車利用計画を作成し、2台しかない灌水車を効率的に活用する。

今後の取り組み方針

・導入した灌水車を効率的に活用し、干ばつや台風時の早急な灌水を行い干ばつ緩和、潮害の被害を最小限にくい止め、農作物の安定供給をはかり、伊江島ブランドとしての農作物の品質維持に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,408	22,408	17,926	4,482	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は、本村指名員会で選定した業者を指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用・使途については、事業目的の観点から、必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	優良繁殖雌牛導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	伊江村肉用牛繁殖農家経営の更なる向上の取組に基づき、県内･外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(雌)を購入し導入した伊江村和牛改良組合員に対して、支援を行い経営の安定化及び優良遺伝繁殖雌牛の生産を図る。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	30,000	30,000			
	(b) 予算現額	30,000	30,000			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	30,000	30,000			
B. 執行済額		30,000	30,000			
うち交付金充当額		24,000	24,000			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初、100頭の導入を予定していたが、交付金上限額を下回った導入牛の予算残額について、二次配分交付決定を行い実績では、103頭の導入数となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
優良繁殖素牛(雌)の導入100頭	目　標	（100頭）	（100頭）	（　）	（　）
	実　績	106頭	103頭		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：伊江村肉用牛繁殖農家経営の更なる向上の取組に基づき、県内･外の家畜セリ市場において優良繁殖素牛(雌)を購入し導入した伊江村和牛改良組合員に対して、補助金を交付し経営の安定化及び優良遺伝繁殖雌牛の生産を図った。これにより今後導入した優良繁殖雌牛が子牛を生産し、本村の素牛生産地としての更なる躍進と優良血統牛群の形成を期待できる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（26年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
活動目標指数(年間:100頭導入)の達成(今年度において、優良繁殖雌牛を100頭導入し全体計画のうち20%の導入率を成果目標とする。これにより飼養頭数拡大及び、優良遺伝生産子数の増加が期待され、市場性の向上並びに本村の畜産振興を図る)	目　標	（　）	（導入100頭）	（導入100頭）	（　）	（　）
	実　績		導入106頭	導入103頭		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：当初の導入計画を上回り、県内外から多数の優良繁殖雌牛が導入された。今後、導入された雌牛への積極的な繁殖治療の推進と市場ニーズに沿った交配計画等を打ち出し優良繁殖雌牛群の形成を図っていく。また、更なる優良血統への切替を推進し今後も引続き導入を実施していく。

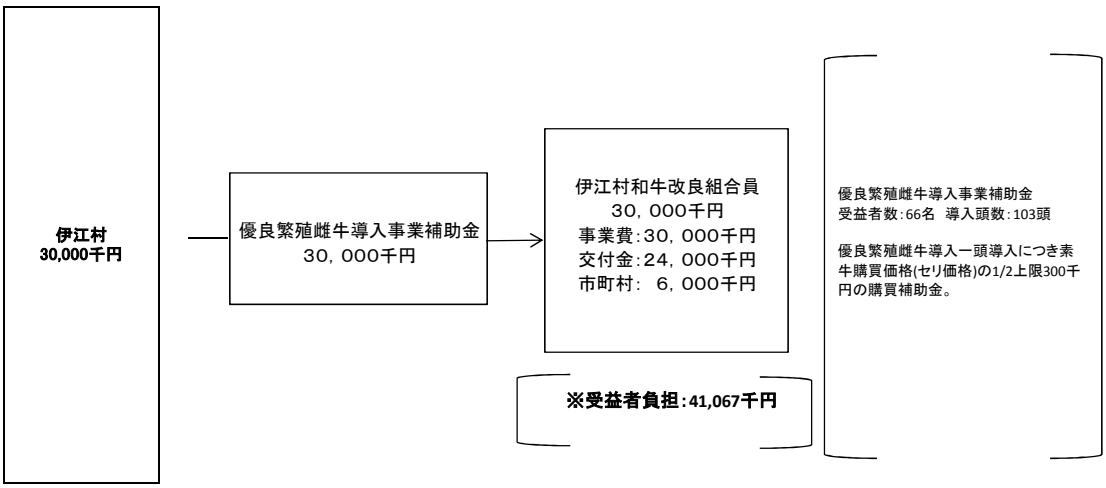
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	事業実施にあたり、県内外の他地域から繁殖素牛を導入する形態の中、外部からウイルスや細菌を自らの農場に侵入させてしまうケースがあり、一定期間の隔離など受益者の飼養管理体制の確認や指導を行う必要がある。また、長距離移動により、輸送段階での事故や、疲労により導入牛が発熱や疾病を発症するのを防ぐため、導入の際には注意を図らなければならない。また、導入後の市場性にマッチした優良牛作出のための計画交配を推奨・促進していく必要性がある。	事業実施にあたり、導入時の初動受入体制の強化を行うとともに、導入後における市場性や地域ブランド確立に向けて後継牛作出にマッチした血統・計画交配を推奨するため、導入後の優良子牛生産を図るマニュアル整備などを図りたい。

今後の取り組み方針

導入された優良繁殖雌牛の今後の繁殖治療経過や飼養状況、生産された子牛の市場評価などを勘案し素牛生産地としての基盤強化を図るとともに、事故や疾病リスクの低減、優良繁殖雌牛の更なる増頭に向けた講習会や交配計画等のマニュアル整備を行い、出荷子牛の発育性の斉一化や地域ブランドの確立を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
71,067	30,000	24,000	6,000	41,067



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当だと考えている。 ○畜産農家の高齢化による廃業及び離農が多くみられ、年々減少していく繁殖雌牛の維持並びに増頭の為に本事業を推進しており、事業実績及び成果目標指数の達成状況を含め、適正な予算規模であったと考えている。 ○全国的な素牛数の減少により、素牛購買価格が高騰しており他の一括交付金事業と比較しても受益農家の負担率が大きい。 ○費目・使途については、補助金交付要綱に基づき補助額の確定時において支出等に関する要綱により確認した結果、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-②	乳用牛繁殖雌牛更新事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	伊江村酪農経営の更なる向上の取組に基づき、2産(4歳)以上した母牛を淘汰し地域保留や県外から導入した優良繁殖雌牛(素牛)に対して、予算範囲内で支援を行い安定した生乳出荷を行う事で、信頼性のある産地づくりを図る。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	4,000			
	(b) 予算現額	3,200	1,800			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 800	▲ 2,200			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	3,200	1,800			
B. 執行済額		3,200	1,800			
うち交付金充当額		2,560	1,440			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初、20頭の更新を予定していたが11頭分の予算2,200千円を減額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
乳用繁殖母牛の更新　20頭	目　標	（　20頭　）	（　20頭　）	（　　）	（　　）
	実　績	16頭	9頭		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：当初更新予定の20頭のうち2戸農家で繁殖素牛の導入及び自家生産保留牛の該当が無く、全体で9頭の更新となった。
11頭の更新が減となったのは県内外における素牛価格の高騰と自家生産において、流産、死産が重なったことが要因とされる。
今年度において更新した9頭が今後本村における生産泌乳量の増加と乳質改善に寄与していくことが期待される。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（26年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
活動目標指数(年間:20頭更新)の達成(今年度において、20頭の乳用経産牛を更新し、全体計画のうち20%の更新率を成果目標とする。またこれにより、泌乳量増加や乳質改善を図られ本村の畜産業の振興に繋げる。)	目　標	（　　）	（　更新20頭　）	（　更新20頭　）	（　　）	（　　）
	実　績		更新16頭	更新9頭		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：当初更新予定の20頭のうち2戸農家で繁殖素牛の導入及び自家生産保留牛の該当が無く、全体で9頭の更新となった。
11頭の更新が減となったのは県内外における素牛価格の高騰と自家生産において、流産、死産が重なったことが要因とされる。
今後、更新した9頭が本村における生産泌乳量の増加と乳質改善に寄与していくことが期待される。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	事業実施にあたり、県内外の他地域から繁殖素牛を導入する形態の中、外部からウイルスや細菌を自らの農場に侵入させてしまうケースがあり、一定期間の隔離など受益者の飼養管理体制の確認や指導を行う必要がある。 また、導入のみの増頭目的では無く、高齢母牛の淘汰促進を事業内容としているため、実質、経営頭数は±0であり、若齢繁殖素牛が初産を迎えるまでの経費だけでなく飼養管理体制の効率化を図る必要性がある。	事業実施にあたり、当該事業にて導入した繁殖素牛の乳量や乳質の向上にむけた種雄牛の選定を行い、また後継繁殖素牛の作出を促進させるために繁殖交配マニュアル整備などを図りたい。

今後の取り組み方針

導入された繁殖素牛の今後の繁殖治療経過や飼養状況、生産された子牛の遺伝形質能力などを評価し酪農生産地としての基盤強化を図るとともに、事故や疾病リスクの低減、搾乳牛の増頭に向けた施策を図り、地域酪農振興に繋げていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,050	1,800	1,440	360	2,250

伊江村
1,800千円

→ 乳用牛繁殖雌牛更新事業助成金
1,800千円

→ 酪農家2戸
1,800千円
事業費：1,800千円
交付金：1,440千円

乳用高齢牛の更新一頭につき、一律200千円の助成金交付。(導入経費の1/3助成)

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当であると考えている。 ○高齢牛の淘汰促進を促し生産性の向上や乳質改善に努めており助成額は妥当だと考えている。 ○費目・使途については、素牛生産並びに乳生産を図るまでの経費を考慮し一律助成をしており適正であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③	肉用牛集出荷施設機能改善事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)
事業内容	家畜市場の老朽化に伴う改修工事並びに、県内家畜市場において本村は唯一家畜誘導ﾚｰﾙｼｽﾃﾑが未整備であるため、セリ市開設時の安全面確保のために誘導ﾚｰﾙｼｽﾃﾑ設置を図る。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況 (a) 当初予算額	18,000				
予算の状況 (b) 予算現額	24,661				
予算の状況 (c) 増減額 (b-a)	6,661				
予算の状況 (d) 繰越額	－				
予算の状況 A. 計 (b+d)	24,661				
B. 執行済額	24,661				
うち交付金充当額	19,729				
次年度繰越額	－				
執行率（%）(B/A)	100.0%				

予算の状況の説明：当初、18,000千円の予算額であったが、9月補正で附帯設備追加分の予算6,661千円を増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
①家畜誘導レールシステム設置(一式)	目　標	（　備品購入設置　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	設置完了			
②市場機能改善設備工事(屋根・水道管)	目　標	（　建築工事　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	工事完了			

達成状況説明：誘導レールシステムを設置することによりセリ市開設時の安全面の確保及び市場機能拡充のため家畜市場を改修することにより、セリ市開設時の運用改善が図られた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（27年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
誘導ﾚｰﾙｼｽﾃﾑを設置することによりｾﾘ市開設時の安全面の確保及び市場機能拡充のため家畜市場を改修することにより、ｾﾘ市開設時の運用改善が図られる。	目　標	（　）	（　整備完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		設置・工事完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：県内家畜市場において本村は唯一家畜誘導レールシステムが未整備であるためセリ開設時の安全面確保のために誘導レール設置を行い、併せてセリ市場機能拡充のため改修工事を図った。これにより、今後における家畜セリ市場の安全な運用の確保と機能強化工事により市場機能の延命と拡充が図られ、市場開設時の事故防止と機能運営を図っていく。

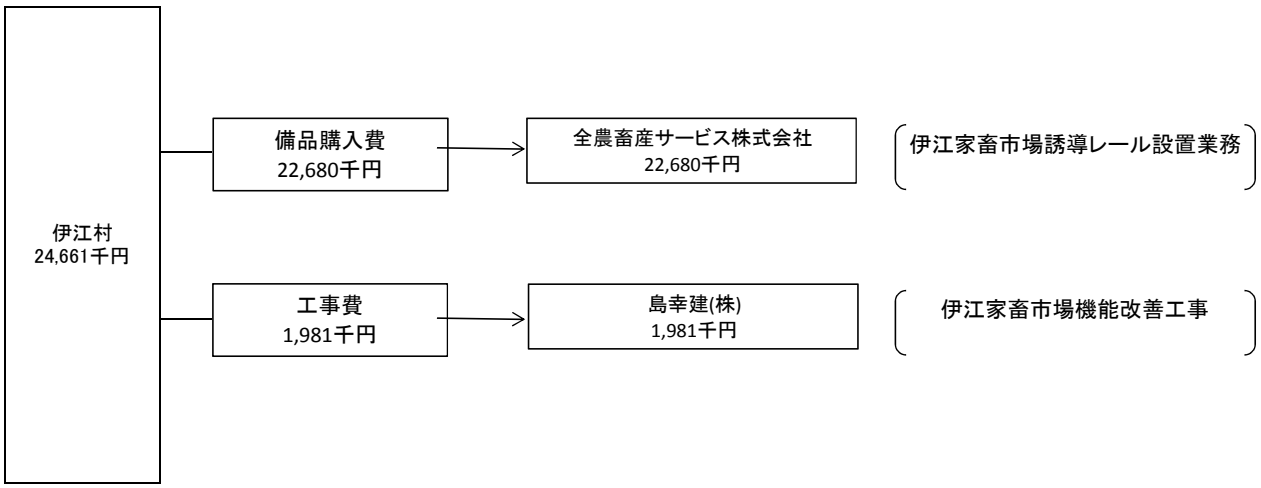
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	県内家畜市場において本村は唯一家畜誘導レールシステムが未整備であるためセリ開設時の安全面確保のために誘導レール設置を行い、併せてセリ市場機能拡充のため改修工事に取組んだ。 今後における家畜セリ市場の安全な運用の確保と機能強化工事により市場機能の延命と拡充が図られ、市場開設時の事故防止と機能運営を図っていく。	伊江家畜市場は、竣工から約20年経過しているが当該事業にて新システムの設置と市場機能強化が図られたことにより、安全な市場開設を行い、さらなる利便性向上と県畜産共進会等のイベントの提案などを実施していく必要がある。

今後の取り組み方針

家畜市場全体の利便性向上に向けた整備は完了したことから、今後においては安全な市場開設を行い、さらなる利便性向上と県畜産共進会等のイベントの提案などを実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,661	24,661	19,729	4,932	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入事業者及び建築工事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○附帯設備追加における増額補正を行ったが、不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-①	村花・世界のゆり植栽推進業務		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24年～31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	村花であるﾃｯﾎﾟｳﾕﾘと世界のゆり球根を植栽し、花の島づくりを推進する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,100	3,131	3,000	3,000	
	(b) 予算現額	899	2,996	2,980	2,938	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,201	▲ 135	▲ 20	▲ 62	
	(d) 繰越額	－	－	－	－	
	A. 計 (b+d)	899	2,996	2,980	2,938	
B. 執行済額		899	2,996	2,980	2,938	
うち交付金充当額		719	2,396	2,384	2,350	
次年度繰越額		－	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予定を下回る金額で契約したことで62千円減額となったが、予定した事業内容は全て執行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・てっぽうゆり球根50,000球世界のゆり球根20,000球	目　標	ゆりの球根購入（30,000球）	ゆりの球根購入（60,000球）	ゆりの球根購入70,000球）	ゆりの球根購入70,000球）
	実　績	ゆりの球根購入30,000球	ゆりの球根購入70,000球	ゆりの球根購入70,000球	ゆりの球根購入70,000球
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	昨年に引き続きテッポウユリの球根50,000球、世界のゆりの球根20,000球を購入しゆり祭り会場であるリリーフィールド公園に植栽した。花の咲き具合等も好評で祭りイベントの向上を図ることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
・第20回伊江島ゆり祭り来場者数33,000人(H26年31,000人)	目　標	（　）	（34,000人）	（34,000人）	（33,000人）	（　）
	実　績		31,000人	31,000人	30,000人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	球根の更新を行ったことにより花の咲き具合もよく、来場者がもっとも多くなるゴールデンウィーク中に満開の花を咲かすことができた。20回の記念祭りにふさわしく天候にも恵まれ世界のゆり75品種も色とりどりの花を咲かせ来場者に好評で花の島づくりを推進することが出来た。しかし、来場者数目標に届かなかったため、新たな目玉となる品種を選定していく必要がある。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・古い球根では花の輪数も少なく疫病にかかりやすい。植栽した他の球根へも疫病が広がる事から今後も新しい球根を更新していく必要がある。 ・球根を更新した事により祭り全体のボリュームは良くなったが、若干、畑によって咲き具合にばらつきがあるため、購入する球根のサイズを一定にしばらつきを抑える必要がある。 ・来場者数目標を達成するために世界のゆり75品種だけでなく、種苗業者と調整を行い、新たに植栽できる品種が無いか検討し、他の地域では見られないような品種を導入することで祭りの目玉として観光客の誘客に努める必要がある。 ・これまでオープニング時期には花の咲き具合がよくなかったため、来場者から不満の声もあがっていた。開催期間は短くなるが、花の咲き具合を鑑み例年より1週間遅らせて開催した。	・球根の更新、選別を徹底的に行い、優良品種育成を図る。 ・優良品種の球根が導入できたため、一定量の生産が見込めることから、球根サイズの一定化をはかり、咲き具合のばらつきを抑える。 ・新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努める。 ・例年より祭りのオープニングを1週間遅らせた事で、期間中の咲き具合も良好で多くの来場者から好評を得た。1週間短い開催期間となったが昨年の来場者数から約1,000人の減に留める事ができた。今後も咲き具合を考慮し、開催期間を検討していく。

今後の取り組み方針

今後、新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努め、また一定サイズのテッポウユリの球根を導入することで会場全体のボリュームアップを図り来場者数目標の33,000人を達成できるよう努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,938	2,938	2,351	587	0

伊江村 2,938千円 → 原材料費 2,938千円 → 新緑園　園芸センター 2,938千円

（球根購入：テッポウユリ50,000球
：世界のゆり20,000球）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定した業者は、7万球もの多量の良質な球根を短期間に調達できる唯一の業者であり、選定は妥当であると考えている。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、金額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-②	観光地クリーン事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成24年度～31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	観光地の環境美化及び保全をし、観光地の景観形成と観光客の受け入れ態勢を強化する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	18,000				
	(b) 予算現額	20,147				
	(c) 増減額 (b-a)	2,147				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	20,147				
B. 執行済額		20,147				
うち交付金充当額		16,117				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		繁忙期等に当初予定を上回る人数で作業に従事したため、2,147千円の増額となったが事業内容をふまえ観光客の受入体制の整備を行えたため、適正な執行に努めることができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
観光地環境美化保全作業員14名	目　標	（　作業員14名　）			
	実　績	18名			
	目　標	（　）			
	実　績				

達成状況説明
・事業年度内で退職した作業人や新規採用した作業人もいるため、年度内で賃金を支払った者は延べ18名となった。
・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができた。
・台風襲来前に危険木を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
観光地美化満足度70%以上	目　標	（　）	（H27美ら島満足度目標70%）	（　）	（　）	（　）
	実　績		H27美ら島満足度70%			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明
・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができた。また、台風襲来前に危険木を撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。
・各観光地、ローテーションで作業したが、アンケートの意見に「草が伸びていた」等の意見があった。敷地が広い観光地に時間がかかり偏りが見られた月もあるため、グループで作業場所を分ける等工夫し、作業時間の偏りや草の伸びすぎが無いよう努める。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができたが敷地が広い観光地に時間がかかり偏りが見られた月もあった。 ・偏りがあったため草が伸びすぎてしまった観光地もあった。 ・台風襲来前に危険木を撤去することで、台風の被害を少なくすることができたが、まだ倒木や枯木が見られる。	・観光地の継続的な環境美化及び保全に努め、快適な観光客の受け入れができたが敷地が広い観光地に時間がかかり偏りが見られた月もあるため、グループで作業場所を分ける等工夫し、作業時間の偏りが無いよう努め草の伸びすぎが無いようにする。 ・台風襲来前に危険木を撤去することで、台風の被害を少なくすることができたがまだ倒木や枯木が見られるため、撤去作業、植栽を行い、緑化づくりによる景観形成を行っていく。

今後の取り組み方針

・今後も年々増加傾向にある観光客が、快適な伊江島の旅を楽しむためにも安全安心な観光地づくり及び美ら島づくりに務め、アンケートを実施し、満足度を達成できるよう、環境美化及び保全に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,147	20,147	16,117	4,030	0

伊江村
20,147千円

→ 賃金
20,147千円

→ 村雇用作業人
20,147千円

（観光地清掃作業人：18人）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○伊江村賃金職員雇用管理規則に基づき雇用している作業人であり、妥当であったと考えている。 ○当初予定を上回る人数となり予算規模は上回ったが、事業内容をふまえた増額であり、適正である。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	８－③	自然と乗馬ふれあい体験による観光振興事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3－（2）－（ウ） 観光客受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）
事業内容	森林や海浜など自然の中で乗馬体験を行う新たな観光資源の活用を図るため、調教馬導入支援及び広報活動活動を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,000				
	(b) 予算現額	9,900				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 100				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	9,900				
B. 執行済額		8,910				
うち交付金充当額		7,128				
次年度繰越額						
執行率 （%） (B/A)		90.0%				
予算の状況の説明		当初予定を下回る金額での調教馬購入となり100千円の減額となったが、適正に事業を執行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
調教馬４頭購入	目　標	（　調教馬４頭　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調教馬４頭			
パンフレット等による広報活動	目　標	（　パンフレット・HP作成　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	作成済			

達成状況説明：観光振興を図るうえから新たな観光プログラムの創出が求められている中で乗馬体験が即実践できる調教馬４頭を購入することに決定した。調教馬導入に経費を要したため、独自にてパンフレットやHPの作成を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
乗馬体験利用者数H27年2,000人（参考H26年1,730人）	目　標	（　）	（２，０００人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		１，８１７人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：年度末の購入となったため、目標利用者数には達しなかったが、購入後は、飼育環境や土地に慣れ、乗馬トレーニングを積み乗馬体験が早々に展開できるようになった。調教馬であることから安全安心で4頭が一同に乗馬体験でき、労力や時間短縮が図れた。平成28年度から本格稼働となるが、関係機関と連携を図り、大きな事業効果が得られるものと考える。

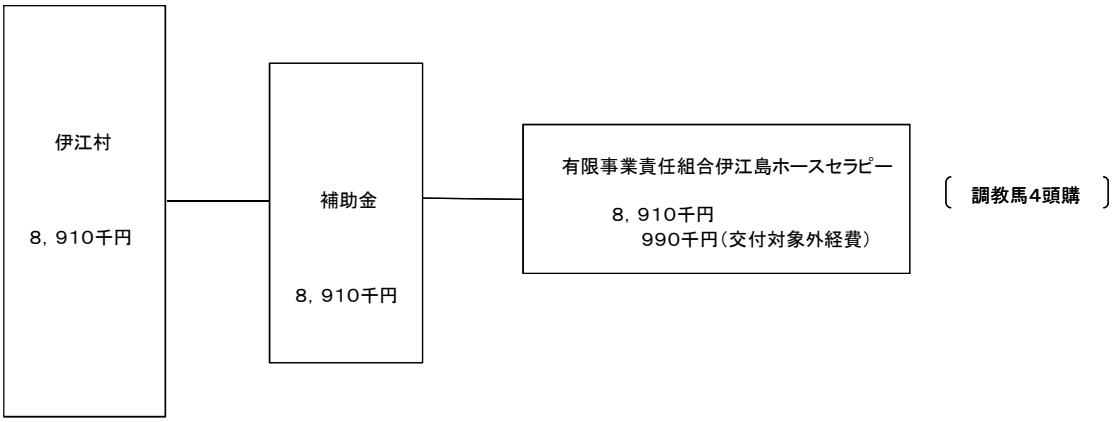
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①本村の新たな観光プログラムの創出とアクティビティーの充実を図られ、今後の観光振興に大きく貢献する事業であり、補助団体との連携を強化していく必要がある。 ②コース、時間、料金設定等、利用者が満足し、リピーターとして来島するよう観光振興につなげていく必要がある。 ③県内外への情報発信や利用者への案内表示が十分でないため、案内板等の設置。 ④各団体と連携を図り利用者増に繋げるための対策。	①観光協会等の関係団体と連携を図り、HPによる情報発信や県内外への周知を図り、乗馬を含めたアクティビテー体験ツアー等の企画に努め誘客に努めていく。 ②未経験者から上級者向けまでのコースに対応が必要となる事から雇用増員が必要と考えられる。 ③案内板等の設置やインターネット等の検索での周知も必要である。 ④乗馬プログラムや料金の設定を考え、関係団体への周知が必要である。

今後の取り組み方針

観光協会等関係機関との連携強化による本土中高生修学旅行や民家体験泊等での利用や本部港における案内・周知等を積極的に行うことにより、観光客の利用者が増える。また、村内イベントにおける乗馬体験を実施し、村民方から体験することにより村内外への観光客に周知を図る。HPやパンフレット等の活用により、利用者へ乗馬の魅力を発信していく取り組みを展開し、認知向上にも努めていく。未経験者から上級者へのコース設定により、リピーター増やし観光振興に貢献につながる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,900	8,910	7,128	1,782	990



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業執行にあたり当組合へが指定管理者となっていることから補助が妥当な執行であったと考えている。 ○乗馬実践ができるの調教馬購入であり、予算規模、事業内容とも適正である。 ○受益者も10%の自己負担をしており妥当であると考えている。 ○費目、使途については額の確定時に支出等に関する書類等を検査し、目的に即し、必要なものだと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-④	観光客誘客環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客受入体制の整備
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成26年度～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	城山や青少年旅行村など観光施設の機能拡充を図るための整備や観光地環境美化保全に取り組む機械を導入する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	135,400	109,047			
	(b) 予算現額	145,070	122,105			
	(c) 増減額 (b-a)	9,670	13,058			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	145,070	122,105			
B. 執行済額		145,070	122,105			
うち交付金充当額		114,786	97,683			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		増額13,058千円発生しているが、主な原因として青少年旅行村駐車場整備に追加工事が加わったことが要因となっている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
城山アーケード、旅行村進入路等（進入路、駐車場、管理棟）整備工事の実施。	目　標	（　）	（実施設計及び整備）		
	実　績		実施設計 整備完了		
旅行村施設等（更衣室、テラス拡張）の実施設計の実施。	目　標	（　）	（実施設計）		
	実　績		実施設計完了		
湧出展望休憩施設の実施設計の実施。	目　標	（　）	（実施設計）		
	実　績		実施設計完了		
観光地管理用機械導入 （2tトラック1台、乗用芝刈り機1台）	目　標	（　）	（備品購入）		
	実　績		備品購入完了		
H26活動目標 ・青少年旅行村内炊事場設置工事 ・リリーフィールドゆり展示棟工事 ・村内観光地トイレ工事 ・ニーバンガジュマル施設整備工事 ・アハシャガマ整備工事 ・ハブクラゲネット設置 ・トラクター購入	目　標	（実施設計及び整備完了　備品購入）			
	実　績	実施設計及び整備完了 備品購入完了			
達成状況説明	・事業を実施する中で、青少年旅行村駐車場整備等の追加の工事が出たが、設計・整備工事において工期の延長もなくすべて年度内に事業を実施することができた。備品の納入についても、適時に設置する事ができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
	城山アーケード、旅行村進入路等（進入路、駐車場、管理棟）整備工事の完了。	目　標	（　　）	（　　）	（　実施設計及び整備　）	（　　）	（　　）
		実　績			実施設計整備完了		
	旅行村施設等（更衣室、テラス拡張）の実施設計の完了	目　標	（　　）	（　　）	（　実施設計　）	（　　）	（　　）
		実　績			実施設計完了		
	湧出展望休憩施設の実施設計の完了	目　標	（　　）	（　　）	（　実施設計　）	（　　）	（　　）
		実　績			実施設計完了		
	観光地管理用機械（乗用芝刈機、2tトラック）の整備完了。	目　標	（　　）	（　　）	（　備品購入　）	（　　）	（　　）
		実　績			備品購入完了		
	・キャンプや野外活動に必要な炊事・調理スペースを利用者のニーズに即したキャンプ場炊事場工事。 ・数々の原種、園芸品種を植栽展示する展示園 場施設の整備 ・利用者の利便性向上のため、村内各所の観光地のトイレを和式から洋式に整備 ・炎天・雨天時の修学旅行や各種団体観光客の 全体で行う入村・離村等の集会を行うための施設を整備する。 ・ニーバンガジュマル施設を駐車施設の整備 ・アハシャガマにおける見学や交通の安全性を確保のため防護柵設置 ・伊江ビーチに海洋危険生物防護ネットを整備 ・伊江ビーチの海岸漂着物等を効率的に除去し、ビーチ及び旅行村内を整備するためのトラク	目　標	（　　）	（　実施設計及び整備　） 備品購入		（　　）	（　　）
		実　績		実施設計及び整備完了 備品購入完了			
	進捗状況説明	・村内の観光施設を整備したことにより、以前よりも観光客又は修学旅行といった各種団体客が安心・安全・快適に村内を観光してもらう受入体制を強化することができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・伊江村には数多くの観光誘客施設があり、年間通して多くの観光客が訪れるが、ここ数年民泊事業の観光入客数が伸び悩んでいるところです。理由としては沖縄県内のバス運賃の値上げや他市町村の観光地施設整備推進によって、今まで来ていた民泊の修学旅行が沖縄本島に流れている傾向があります。そこで、伊江村として施設の機能拡充をすることにより、他市町村との差別化を図り、よりよい観光客受入体制及び満足度向上につなげたい。	・今回26年度に引き続き観光施設を整備したが、そのほかにも年数が経ち整備の必要な施設や機能拡充が必要な施設がいくつかありますので、今後も観光協会や商工会などの観光関係団体や区長会等の地域と連携し、改善及び修繕を行い、更なる観光誘客施設の向上を図りたい。 その他、今回観光地管理用機械導入を行ったことにより、観光地の環境美化保全作業効率への促進につなげたい。

今後の取り組み方針

平成26年度から観光誘客環境整備事業を開始し、すでに整備をして受入体制を強化した施設については、伊江村観光連絡協議会や県内修学旅行誘致キャンペーン、伊江村民泊意見交換会等を通して、県内外広くPRしていき伊江村の観光振興に繋げていきたい。
前年度の今後の取り組み方針で観光客を対象としたアンケート調査等を行う予定でしたが、平成27年度に開催した伊江村観光連絡協議会で村内の観光関係団体、県内修学旅行誘致キャンペーンで県内の学校、民泊意見交換会で県外の学校や旅行業者等の意見を聞くことが出来大変参考になったことから、アンケート調査を行わなかった。
伊江村には年間を通して数多くの観光客が訪れますので、今後も観光関係団体及び地域と連携し、観光施設の機能拡充を図り、更なる観光客の満足度向上に繋げていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
122,105	122,105	97,683	24,422	0

- 伊江村 122,105千円
  - 委託料 16,254千円
    - きた建築設計　5,562千円　（湧出展望休憩施設建設設計　2,484千円）（青少年旅行村施設整備設計　3,078千円）
    - 照屋建築環境設計　1,944千円　（城山アーケード整備工事設計　1,296千円）（城山アーケード整備工事監理委託業務　648千円）
    - （株）ｼﾋﾞﾙｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ　8,748千円　（青少年旅行村駐車場整備設計　4,752千円）（青少年旅行村浸透地整備設計　2,052千円）（青少年旅行村駐車場整備工事現場技術業務　1,944千円）
  - 工事請負費 100,613千円
    - （有）ｴﾑｴｰﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ　21,762千円　（城山アーケード整備工事）
    - （株）輝男建設　78,851千円　（青少年旅行村駐車場整備工事）
  - 備品購入費 5,238千円
    - 光オートサービス　3,780千円　（2tトラック1台購入）
    - 伊江農機　1,458千円　（乗用芝刈り機1台購入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は入札より選定しており、妥当であったと考えている。 ○見積もりを複数徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-①	文化財保全観光地化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育委員会　生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成27年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)
事業内容	本村には国の史跡「具志原貝塚」の他、数多くの文化財がある。島に残された貴重な文化遺産である文化財や景勝地の美化保全を進め、地域住民の文化財愛護意識を高めるとともに、観光資源としての活用を進めるうえでの基本構想を策定し、村内文化財(指定、未指定問わず)の整備、環境美化、村内文化財案内の導線ルートなどの方向性を定める。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,927				
	(b) 予算現額	3,996				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,931				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,996				
B. 執行済額		3,996				
うち交付金充当額		3,196				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		基本構想の策定に当たり業者への委託を行う。3,931千円は入札による減である。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
村内文化財の整備、環境美化、文化財の導線ネットワーク、展示施設に関する基本構想の策定。	目　標	（　策定　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	H28.3　策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：策定業務を実施し、平成28年3月末に文化財の保全及び観光地化に関する基本構想を策定することができた。
基本構想の内容として、村内文化財・資料展示施設の現況を整理し、村内文化財に関してはテーマを設定し、テーマ別の導線ルート案を設定した。資料展示施設に関しては、既存施設の改修・島内の遺跡と戦争に関するテーマ展示を軸に検討すると同時に別の候補地での総合展示に関しても検討を行った。具体化の検討に関して、整備に向けた体制作り、調査の実施、人材の育成を挙げた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
村内文化財の整備、環境美化、文化財の導線ネットワーク、展示施設に関する基本構想を策定し、今後の村内文化財整備の方向性を定める。	目　標	（　）	（方向性を策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		H28.3　策定 100%			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：平成28年3月末に村内文化財の保全及び観光地化に関する基本構想を策定することができた。基本構想の内容として、村内文化財の導線ルート案の設定、資料展示施設に関する検討を行った。
今後は文化財保全・観光地化に向けて、更なる調査、基本計画の策定などを進めていく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・国指定の史跡「具志原貝塚」などの文化財が指定・未指定問わず多く所在しているが、そのほとんどが未整備となっている。 ・村内の考古資料、民俗資料などを展示する資料展示施設の必要性が課題として出され、関連して資料展示施設の規模、展示内容についても検討がなされた。 ・ガイド人材の必要性、その育成についても策定作業を進める段階で課題が出された。 ・村内外の関係機関との連携を図ることが容易ではなかった。	・国指定史跡、埋蔵文化財などに関しては文化庁の補助、その他の文化財（指定、未指定問わず）に関しては沖縄振興特別推進交付金などを活用し、整備・保全を行っていきたい。 ・策定された基本構想を基に、今後基本計画などの工程において資料展示施設の在り方、規模、展示内容について引き続き検討していく。 ・ガイド人材に関しては、講習会を開くなど、人材育成を進めていく。 ・庁内の推進体制だけではなく、外部、地域などの協力も得て、取り組みを推進していく。

今後の取り組み方針

・今後、保全・観光地化に向けての調査を行いつつ、村内外の関係機関との連携、協力を図りながら、基本計画、基本設計などを策定していく。

・未整備の文化財に関しては、文化庁補助事業なども活用しながら、文化財の保全・観光地化を進める。（H28～H31年度　国指定史跡「具志原貝塚」 調査（資料再整理・試掘調査）文化庁補助を活用）

・資料展示施設に関しては、その規模、展示内容に関して今後策定予定の基本計画などで検討し、具体化していく。

・平成28年度以降は基本構想に基づき、基本計画の策定、文化財の環境美化・保全、ガイド人材の育成などを進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,996	3,996	3,196	800	0

伊江村
3,996千円

→

委託費
3,996千円

→

株式会社沖縄文化環境研究所
3,996千円

伊江村文化財保全観光地化事業（伊江村文化財保全活用基本構想策定業務）を委託。

「伊江村文化財保全活用基本構想」を策定。

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札により選定を行っており、妥当であると思われる。 ○入札による残があったが、策定された方向性に不足がないため、適正な規模であった。 ○業務完了後に検査をおこなった結果、適正であった。。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１０－①	確かな学力を育む学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5（2）－ヲ 教育機会の拡充
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容	小、中学校への免許外教科担当者の解消と専科教諭の配置、児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせるための学習支援員の配置、更には発達障がいなど様々な障がいがある児童生徒に対し特別支援教育支援員などの配置を行い、自立し生きていくための土台づくりを行う。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	14,857	19,440	19,440		
	(b) 予算現額	13,345	17,351	20,536		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,512	▲ 2,089	1,096		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	13,345	17,351	20,536		
B. 執行済額		13,345	17,351	20,536		
うち交付金充当額		10,300	13,881	16,429		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		12名（小学校8名、中学校4名）の支援員を予定通り確保することができた。また、今年度より小学校の学習支援員の賃金が 日当7，000円から7，500円に増額になったため当初予算より増額となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
学習支援員配置学校数：3校	目　標	（　3校　）	（　3校　）	（　3校　）	（　　）
	実　績	3校	3校	3校	
学習支援員12名配置	目　標	（　11人　）	（　12人　）	（　12人　）	（　　）
	実　績	11人	11人	12人	

達成状況説明	当初の目標通り3学校へ12人の学習支援員を配置することができた。 （西小4名、伊江小4名、伊江中4名）

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
・児童生徒（対象数：380人）個々の習熟度に応じた学習支援体制を整えることにより、学習意欲の向上・学力の底上げを図る。	目　標	（　　）	（　380　）	（　380　）	（　380　）	（　　）
	実　績		378	378	381	
・県学力到達度調査において、正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で各教科30%以下に減らし、村全体の学力向上を図る。	目　標	（　　）	（　　）	（正答率30%未満の減）	（正答率30%未満の減）	（　　）
	実　績			未達成	13科目中10科目で達成	

進捗状況説明	平成28年2月に行われた県到達度調査において、村学力向上推進委員会の達成目標である正答率30%未満の児童生徒の割合を小学校で10%以下、中学校で30%以下にする」という数値目標を小3（国語2.9%・算数0%）、小4（算数8.8%）、小5（理科4.9%）、小6（算数2．3%）、中1（数学4.7%）、中2（国語14.4%、社会19.2%、理科19%、英語23.9%）で達成できた。小学校3年生においては、正答率、正答率30%未満すべてにおいて県平均を越えていた。小5の国語・算数と中2の数学において未達成ではあったが、 支援員の配置により学力の底上げに効果を得ている。対象数は小学校で人数の増があったため1人増になった。

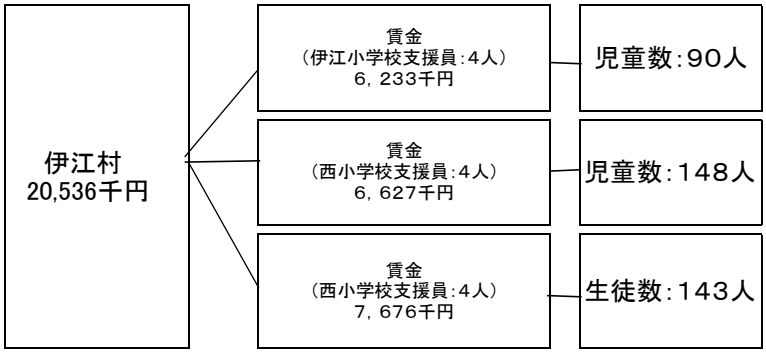
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	●沖縄県は過去全国学力テストにおいて、全国下位の状況が続いていたが、近年は小学校で飛躍的に学力の底上げがなされてきている。しかし中学校においてはまだ厳しい状況にある。そのため児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせる必要がある。 ●支援員12名を確保するために、県内の大学へ支援員希望者の募集を早めにかける。 ●村外からの支援員を採用する場合は宿舎の確保が必要。村内出身者で教員免許保持者がいる場合は積極的に採用する。 ●児童生徒の個々の段階に応じた適切な学習指導ができるよう、支援員の研修を充実させる必要がある。	●支援員の資質向上のため指導主事が主となり、支援員の研修を行う。 ●人材確保に向け、引き続き継続雇用が可能か早めに把握し、支援員の確保につとめる。 ●支援員と宿舎不足解消のために、村内出身者で自宅通勤可能な者を採用するなどの方策を講じる必要がある。

今後の取り組み方針

●支援員の継続雇用が次年度も可能か1月中には把握し、人員不足が予想される場合は県内大学へ支援員希望者の広報活動を行い人材確保につとめる。
●支援員の指導力の向上を図るため、指導主事を中心に学習指導法などの研修を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,536	20,536	16,429	4,107	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定は有資格者（教員免許所得者）を選考し適正に処理できた ○12名の支援員を確保できた。小学校の支援員の日当額が7,000円から7,500円に増額したが予算規模において適正に処理できた。 ○使途について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11－①	沖縄らしい風景づくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（6）－ア
					沖縄らしい風景づくり
担当部課名	政策調整室	事業実施（予定）年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	景観法に基づく効果的な景観形成を促進するための景観向上行動計画を策定する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,000				
	(b) 予算現額	6,912				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,088				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	6,912				
B. 執行済額		6,912				
うち交付金充当額		5,529				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		1.00				

予算の状況の説明

当初予算額では8,000（千円）（委託費）であったが、不用額の1,088（千円）については入札残によるもの。事業内容は計画通り執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
・現地調査	目　標	（　調査　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
・上位関連計画の整理	目　標	（　整理　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
・景観構造、景観特性の把握	目　標	（　把握　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
・アンケート調査	目　標	（　1回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1回			
・ワークショップ	目　標	（　3回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3回			
・景観計画の検討	目　標	（　検討　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			

達成状況説明

・現地調査については、既往資料の整理ならびに現地踏査（定期航路船や漁船などの船舶上からの景観調査、景観的に重要な建物や樹木などの調査、屋外広告物現況調査も含む）を行い、景観形成方針等の基礎資料とした。
・上位関連計画の整理では、沖縄県の作成した「美ら島沖縄風景づくり計画」、「沖縄県土木施設景観形成技術指針（案）」、「沖縄県公共建築物景観形成マニュアル」、沖縄総合事務局が作成した「美ら島おきなわ風景づくりのためのガイドライン」、「沖縄を事例とした景観の見方集」などの上位関連計画において、本村の景観形成に係る内容をとりまとめた。
・景観構造、景観特性の把握においては、地域の身近な景観資源と良好な景観を阻害する景観阻害要因（屋外広告物、農業用施設、大規模建築物・工作物、不法投棄物など）を把握した。また、集落・まちなみ、農村風景、海浜・海洋風景、城山への眺望など、本村らしい景観を形成している景観構造を明らかにし、景観特性をまとめた。
・アンケート調査は、本村らしい景観の把握や、本村が抱える景観の課題など、村民の景観に対する意識把握を行うため実施した。全世帯を対象に、アンケート票の設計においては、「本村らしい景観とは何か、残したい景観は何か」を家族みんなで話し合うきっかけとなるような設問を設定した。
・ワークショップでは、景観構造、景観特性を把握し、その景観をどのように維持・活用するかを検討するため、小学生を対象とした子どもワークショップを1回、各区の代表などがさんかするワークショップを2回、計3回実施した。
・景観計画の検討については、景観計画区域（案）と景観形成方針（案）の検討、設定を行った。なお、平成28年4月25日、景観行政団体へ移行した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
村民の意向を踏まえ景観計画及び景観条例を策定・制定することで、伊江村らしい風景を保全し発展させ村民1人1人が意識することで良好な景観保持を図る。	目　標	（　）	（　景観保持　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		未達成			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

平成27年度に村民アンケートや景観ワークショップを開催し、村民の意見を取り入れながら景観計画の計画初歩にあたる景観計画（素案）を策定したことで、景観保持に対する村民の意識付けをすることができたが、条例策定については平成28年度に、景観計画（素案）を基に景観計画（原案）の策定及び景観条例を制定し、景観保持を図っていく。

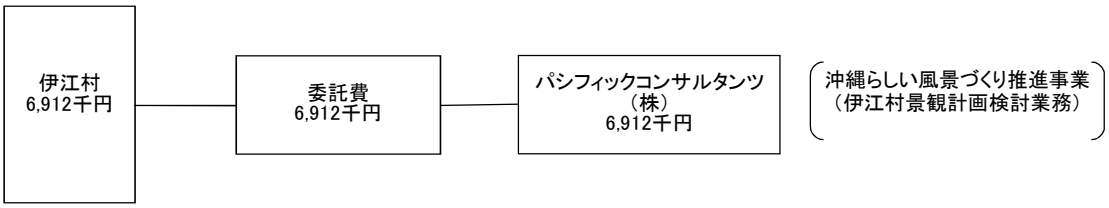
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・景観計画（素案）を策定していく上で、村民の意見を反映させる為、景観計画検討委員会やアンケート調査、ワークショップにおいて、委員や地域住民より意見収集を行った。今後、景観計画（原案）の策定及び景観条例を制定し、伊江村らしい風景を保全・発展させ、良好な景観保持を図っていく為に、同計画の周知を行っていく必要がある。	・村のホームページや村広報誌等において更なる周知を行う。 ・村外から訪れる観光客や民泊旅行者にも周知を行うことで、景観阻害要因となる不法投棄等をなくし、景観保持を図っていく為、村内の観光事業者や民泊受け入れ民家への周知にも繋げる。

今後の取り組み方針

・景観計画（素案）を基に、地域住民や行政、事業者と一体となった景観計画（原案）を策定し、村のホームページや広報誌、防災無線等、あらゆる媒体を活用し村民や観光客に周知することで、景観阻害要因（不法投棄等）を無くし、伊江村らしい風景を後世に残すとともに観光振興の促進に寄与する伊江村らしい風景づくりを目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,912	6,912	5,529	1,383	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は実績や知識を勘案し選定を行い、その中から指名競争入札を実施したことから妥当であったと考えられる。 ○予算規模については、設計書をもとに予定価格を設定し執行していることから妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	12-①	医療保健センター機能拡充事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
担当部課名	医療保健課	事業実施（予定）年度	平成２７～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容	医療保健センター内で運営する村立診療所と歯科医院は島内唯一の医療機関として村民の医療を担っている。1日当たりの平均外来患者数は診療所で104人、歯科医院が35人である。同施設では乳幼児の集団予防接種を年間90日実施し慢性的な駐車場不足が生じ、村民への医療提供に大きな支障をきたしている。駐車場を確保整備することにより安心・安全な医療保健サービスの提供を図る。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	21,000				
	(b) 予算現額	19,442				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,558				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	19,442				
B. 執行済額		19,442				
うち交付金充当額		15,554				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明	不動産鑑定を行い適正な価格を提示し、用地所有者との合意が取れたため、1,558千円の減額となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
用地購入	目　標	（ 1,111㎡ ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1,111㎡			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	計画どおり駐車場用地を取得することが出来た。利用者や近隣住民の安全確保のため、排水などの施設整備をそなえたアスファルト舗装の駐車場整備を実施したい。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（27年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
医療保健センターの駐車場用地を確保することにより交通手段の不安を解消し利用者の利便性の拡充が図られる。	目　標	（　）	（ 用地確保 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		用地取得			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	用地を取得し、駐車可能台数が増加する見通しが出来た。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	計画通り用地を購入できた。医療保健センター利用者の駐車用地を確保することが出来た。 用地が舗装されていないため、泥水の流出による環境問題が考えられる。また、区画整備されていないために、効率的な駐車スペースの利用が出来ない。 駐車場付近の車の往来が増加することが予想される。	舗装することで、排水問題の解決が期待される。 区画整備することで、安全で能率のよい利用が出来ると考えられる 出入り口や駐車場の整備をおこなうことで、利用者や住民の安全の確保につながると推測される。

今後の取り組み方針

駐車場整備工事を28年度事業としてアスファルト（排水計画を考慮した）舗装整備を行い、安心、安全な駐車場の利用ができるよう努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,442	19,442	15,554	3,888	0

伊江村（19，442千円） ― 公有財産費（19，442千円） ― 個人（19，442千円）

〔駐車場整備に必要な土地の購入費〕

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○不動産鑑定評価を行い土地購入額を決定したため支出先は妥当である。 ○予算不用額がなく適正規模である。 ○費目、使途については、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	13-①	水産物加工施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部課名	農林水産課	事業実施（予定）年度	平成27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)

事業内容

既設のもずく加工施設の内部を整備し、もずくの加工出荷のみならず、ソデイカ等を加工ができるようにするための機能充実を図り、衛生面にも考慮した施設を整備する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	52,857				
	(b) 予算現額	52,857				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	52,857				
B. 執行済額		52,857				
うち交付金充当額		42,285				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

実施設計時に保健所との調整による衛生面での機能拡充を十分に図る為、加工施設の加工品原材料の受入室・加工室・包装室・衛生ホール設置等の部屋の区分け及び水回り、消毒施設、汚水処理等の設備を充実させた施設整備を行い、適正な予算の執行を行った。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
既設加工施設内部整備（実施設計・整備工事）	目　標	（　加工施設整備　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	加工施設整備完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

水産物加工施設の整備については、衛生面で整備する部分が増えたが、当初の目的である加工施設を整備することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
既存加工施設内部整備の完了	目　標	（　）	（　完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			
【参考指標】既存加工施設内部整備の完了	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

平成27年度において、水産物加工施設が完了し、平成28年度より施設の運用を行う。
今後の展開として、現在、水揚げ高のあるモズク加工48t、ソデイカ10t、マグロ5t等の良品質で産地の特色を活かした生産加工・販売体制の強化を図る。

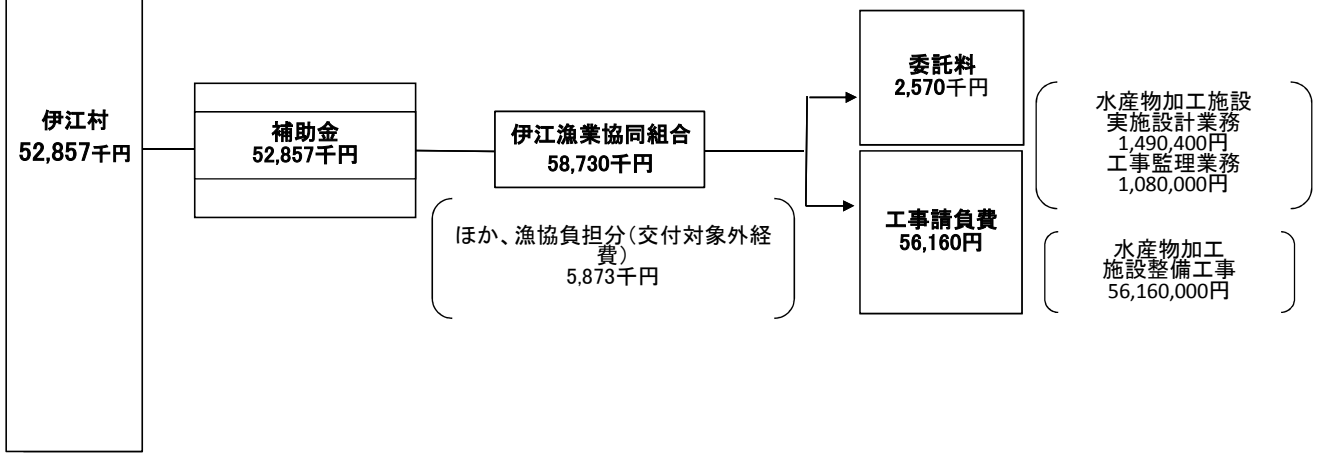
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	これまで、伊江村内で海産物を加工する施設がなかったが、近年、六次産業化の推進及び水産物加工品の需要も増えていることから、水産物加工施設を整備した。今後は定期的に加工商品づくりを行えるように取り組みを行いたいが、近年、モズクやソデイカ、マグロ等の魚価が上がり、加工での新商品作りを行った場合、単価設定や販売先などの課題が想定される。消費者や水産関係業者のニーズ等を聞きながら、一次加工等を行い、対応していくことが必要であると思われる。また、今後は加工場で働く従業員の確保や育成等にも課題があり、天候に左右されやすい水産物の確保等、加工場を運営していく上で重要な課題だと考える。	今後の加工場の利用については、これまで行ってきた加工作業をしっかりと継続していくことに努める。漁業者から加工商品をづくりを行うことで、魚価の安定を求める声もあり、引き続き伊江村で水揚げされる海産物を取り扱っている食堂等と連携を行うことで、加工商品づくりを行いつつ、従業員の確保にも取り組みながら、従業員の加工技術の向上を行う。

今後の取り組み方針

今後、加工商品づくりを行い、商品の開発に係る機械の購入及び従業員の確保や育成についても、漁協が率先して取り組みを行っていく。魚介類の有効的な活用については、平成28年度伊江村・伊江漁協を中心に「浜の活力再生プラン」の策定をすることとなっており、平成29年度から取組みを始め、その中で様々な問題解決に取り組み、伊江島の海産物の知名度の向上、漁家の所得向上、雇用の促進を図り、伊江村の水産業の振興を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
58,730	52,857	42,285	10,572	5,873



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○他の漁協所有の水産物加工施設に精通している伊江漁協に補助金を支出し、事業実施主体とするのが妥当であったと考える。 ○不用額が事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者である漁協は総事業の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○委託料・工事費については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	